

しもつがの「まなびの WA！」

令和7年7月11日

「WA！」には、輪、和、話、環などの意味合いを含め、管内の学校や教職員のつながり、温かい交流、情報交換の広がりなどをイメージしています。

発行：栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所

特別第1号

市村 所長補佐（総括）のお薦めする本

みなさん、こんにちは！所長補佐（総括）兼総務課長の「市村」と申します。これから、この「たより」を通して、児童生徒や教員の皆様に読んでいただきたい「本」や、見ていただきたい「映画」や、聴いていただきたい「音楽」などを、随時、我が教育事務所にいる「先生」から御紹介していきたいと思います。是非お目を通していただき、皆様にとってかけがえのない「作品」を発見してみてください。



さて、私からは渾身のこの「一冊」を御紹介したいと思います！

「かがみの孤城 辻村深月 ポプラ社」

この作品は有名なので、読んだ方も多いのかも知れませんが、**2018年「本屋大賞」受賞作**（※本屋大賞とは、全国の本屋さんが是非売りたいと思う作品を投票して選ばれる賞で、毎年実施しています。）で、歴代大賞受賞作品の中では、「**過去最高得点**」をたたき出している逸品です！

この作品は現在、上・下巻の「文庫本」でも発行されていて、長編モノはチョットという方もいらっしゃるかも知れませんが、章ごとの中に、更に細かく単元が分かれていますので、短編小説並みに読むこともできます。

また、2022年には「**アニメ映画化**」にもなっていますので、是非そちらも御覧ください。読んでから見ても、見ながら読むのもまた違ったテイストが楽しめて、どちらを先に選んでも後悔はさせません！

【あらすじ】

⇒ 同級生から受けた仕打ちが原因で不登校が続き、子供育成支援教室(スクール)にも通えずに、部屋に引き籠る生活が続いていた主人公の中学一年生の女の子が、ある日、自室の鏡が突然光り、鏡の向こうに行くとそこは「お城」で、自分と似た境遇を持つ「中学生6人」と出会い、彼らとともに冒険していく。というのがストーリーです。

【お楽しみポイント1】

⇒ 主人公がお城の中で聞いたことや話していたことが、現実世界に戻ると何か矛盾を感じてしまう、果たしてそれは何故なのか、その真実は何なのか？ということに疑問を感じながら、どんどん読み進めていくと最後に予想を根底から覆す「**大どんでん返し**」に遭います。

【お楽しみポイント2】

⇒ このお城には「オオカミさま」という、狼のお面をかぶった城の案内人の役目を果たす「謎の少女」がいます。物語の終盤には彼女の「本当の正体」が判明するシーンがありますが、そこは**感涙・感動モノ**です。

⇒ こんな楽しみを2つも味わえる、**今度の夏休みに是非読んでいただきたい「1冊」**です！

鈴木 ふれあい学習課長 のお薦めする本

「あばれはっちゃく（山中恒よみもの文庫4）」

山中 恒 理論社



「読み聞かせでクラスを大爆笑させた本」を紹介します。

【あらすじ】

「**“ザ・昭和”なやんちゃ坊主**」という言葉がぴったりの**桜間長太郎**（さくらま ちょうたろう）が主人公。「**あばれはっちゃく**」と呼ばれる長太郎は、美玉（みたま）市立第一小学校の5年生。名前には長太郎と「長」という漢字が入っているが、べつにあちこち長いわけではなく、どちらかというともちこち短くて、ずんぐりむっくりしている。長太郎は、勉強のデキは今ひとつだけど、いたずらにかけてはとにかく知恵のはたらく少年。一本気で正義感にあふれ、弱い者には優しく、悪い大人にはめっぽう強い。

「あばれはっちゃく」とは、「手のつけられないあばれもの」という意味だそうで、長太郎は、意地悪で偏屈（ひねくれた性格）な大人を見ると許すことはできずに、あの手この手のいたずらで愉快痛快到「ギャフン」と言わせてしまう。しかし、長太郎本人は自分がいたずらをしているなんて、これっぽっちも思っていない。むしろ社会正義のために悪い大人と戦っていると思いながら、本気でいたずらをしているのである。

【解説】

山中恒氏作の「あばれはっちゃく」の本は数社から出版されていますが、今回紹介するのは倫理社の山中恒よみもの文庫4「あばれはっちゃく」です。この本には、子どもだと思って油断しているテキ（大人）を向こうに回して、「ギャフン」と言わせる大活躍劇を描いた物語が**20話**掲載されています。そのタイトルは「おかめや作戦」「シェパード作戦」など、全てが「〇〇作戦」であり、タイトルを読んだだけでもどんな手で悪い大人を「ギャフン」と言わせるのかワクワクしてきます。

各話20数ページの文量なので、1話ずつなら気軽に読むことができます。1話を数回に分ければ「**朝の読書の時間**」などに**クラスの子に読み聞かせ**することも可能です。実際に担任していた6年生の子たちに「おかめや作戦」を読み聞かせをした時は、はじめの家族紹介の場面からみんな大笑いで、特に長太郎が同級生の女の子の敵をとるために「おかめや」という駄菓子屋の「おししばあさん」に何度も立ち向かう対決場面の描写では大爆笑していたのを思い出します。

「あばれはっちゃく」は昭和40年代後半頃に刊行されたのが底本となっていますので、駄菓子屋をはじめとして、長太郎が生活をしている風景全体にどことなく昭和レトロを感じます。そんな昭和レトロな町を舞台にドタバタ劇が展開されますので、現代の令和においては人権的な配慮が必要な…と思われる表現や描写がありますが、そこは上手にフォローを入れつつ、クラスの子もたちと一緒に、大爆笑しながら長太郎の奥底にある優しさや正義感も同時に感じてみてはどうでしょう。もちろん**一人でニヤニヤしながら**長太郎の暴れっぷりを楽しむのもお薦めです。

